

令和元年度 第4回草津市環境審議会 議事録（概要）

■日時：

令和元年12月12日（木）14時00分～15時50分

■場所：

草津市役所4階 行政委員会室

■出席委員：

会長	小林 圭介（学識経験のある者）
副会長	山田 淳（学識経験のある者）
学識経験のある者	小笠原 好彦、 壽崎 かすみ、 樋口 能士、 山川 正信、 横田 岳人
産業を代表する者	磯貝 佳則、 奥田 裕介、 鎌田 迅斗、 中川 智、 横江 元康
市民を代表する者	伊藤 かがり、 木村 葉子、 土佐 洋志、 原田 聖明、 松村 幸子
関係行政機関の職員	山崎 賢、 海東 まどか

■欠席委員：

産業を代表する者	森 毅
----------	-----

■事務局：

環境経済部長	藤田 雅也
環境経済部副部長	岡田 芳治
環境政策課長	馬場 英樹
環境政策課	柴野 明子、 榎本 実、 福永 安博
くさつエコスタイルプラザ館長	辻 智
くさつエコスタイルプラザ	藤野 剛志、 齊木 友理

■傍聴者：

0名

■説明員：

資源循環推進課長	中島 正人
農林水産課	柳原 崇志
都市計画課	中野 新識
上下水道施設課	川元 康弘
公園緑地課	米田 彩也夏

■議題等：

1. 「愛する地球のために約束する草津市条例」の見直しについて
2. 「環境基本計画」の進捗状況の確認について

1. 開会、部長 挨拶

2. 議事概要

(1) 「愛する地球のために約束する草津市条例」の見直しについて

資料：愛する地球のために約束する草津市条例 改正素案

【事務局】

<資料について説明>

【委員】

第2条3項のところで、地球温暖化に伴う気候の「変化」という表現があるが、ここ以外は「変動」と表現されている。何か意図があるのか。「変動」は、行きだけではなく戻りも表現できる言葉だが、「変化」は行きだけを表現する一方通行の言葉で、かなり意味が違う。

単なる意見であり、どうするか判断はお任せする。

【事務局】

国や県の資料を調査し、できるだけ簡単な表現ということで、「変化」という言葉を選んだ。御指摘の、戻ってくるというところまでは考慮できていない。

【会長】

「変動」は気候全体のことについて表現しているところで使用していて、「変化」は温暖化を表現するところのみ特化して使用している。今回はそれでもいいかと思う。

【委員】

前文は2行目で改行するのであれば、3行目の先頭は1字下げの必要がある。また、冒頭の文の最初の「私たちが、」の読点は、文章の流れから考えて、無くすことを検討いただきたい。

【会長】

3行目の先頭は1字下げるのは当然だが、「私たちが、」の読点は、「私たち」を強調する意味で文章を切るためのものだと、前回の審議会で少し議論したと記憶している。再度検討いただきたい。

この改正素案については、審議会としてはお認め頂いたということにさせていただく。パブリックコメントはあるのか、もう終わっているか。

【事務局】

当初させていただく予定だったが、必要性が無い可能性もある。一度詰めさせていただくが、無くなる可能性がある。

【会長】

あとは審議会の場を離れて、事務局で進めていただく。

(2)「環境基本計画」の進捗の確認について

資料①：くさつ環境文化プラン～第2次草津市環境基本計画～

資料②：環境基本計画達成目標進捗調査票

資料③-1：環境基本計画進捗状況調査票（取組数）

資料③-2：環境基本計画進捗状況調査票

【事務局】

<資料について説明>

【委員】

達成目標進捗調査票の未達箇所につき、本質的な原因をもっと深掘りして分析し、今後の改善策を立てるべきと考える。原因と改善策が合っていないと感じる。

【委員】

基本計画進捗状況調査票の75番のハスの種の保存について、実際に枯れた原因がわからない中、ハスを植えて生えてくるのか。枯れた原因は追究できたのか。

【会長】

赤野井湾におけるハスの復活は、実証実験の結果では無理だという結論になっている。

この計画は赤野井湾のハス再生が目的ではなく、残った地下茎や種子から種の保存をしていこうというものだ。

湖岸道路ができたことと、農家の濁水防止策徹底によりハスの地下茎成長に必要な微細土壌が赤野井湾に堆積しなくなったこと、これらが赤野井湾のハス全滅の原因だ。

【委員】

達成目標進捗調査票の地球温暖化対策に取り組む市民の割合のところ、実績値33.5%の算出根拠は何か。

また、1人1日当たりの家庭系ごみ量の実績値で、ごみの量が増えている。エコバッグ使用等によりごみ削減に努めているが、店舗側の過剰包装も要因の一つと考える。

【事務局】

33.5%の根拠は、市民から無作為に選出した3,000人に対して毎年実施している市民意識調査の回答結果だ。

【委員】

現基本計画は来年度までの計画だが、達成目標進捗調査票の進捗率が現時点で5割を切っているのは問題だと感じる。

北山田浄水場の親子浄水体験講座は、30年度の実績で1組しか来ていないのか。継続して行っていく事業ならば周知方法を再考すべきだ。

また、キーワードやキーポイントに印をしてもらえるとわかり易かったと感じる。

【事務局】

浄水場の体験講座の実績は、30年度は2名1組だった。周知方法も広報くさつのみだ。

【委員】

達成目標進捗調査票を見て、大部分が目標未達で大変な状況だと感じた。

低炭素社会への転換の、地球温暖化対策に取り組む市民の割合の数値は毎年必ず上がっているはずで、集計方法に疑問を感じる。

また、資源循環型社会の構築の1人1日当たりの家庭系ごみ量が毎年増加していることにも疑問を感じる。

【事務局】

ごみ増加の要因は、新クリーンセンター稼働開始に伴い、祝日土曜日の搬入拡大や、支払い体系が点数制から重量制へ変更したことで、利便性が向上し粗大ごみが増加したことによるものだ。

【委員】

家に溜まった粗大ごみが利便性の向上により持ち込まれたのであれば、令和元年度の集計では減るはずだ。目の前の数値だけでなく全体を見て評価し、未達成理由を考えてほしい。

【委員】

達成・未達成の原因の深掘りができていない。推定と事実を明確に分けて書いた方が良い。

【委員】

温暖化対策のためにエアコンの使用を控えることと、熱中症対策で躊躇せずエアコンを使用することと、これらが相反しており日常生活で迷うところだ。

市内の商店の方には、マイバッグについてはかなり協力していただいていると考えている。

3Rについて、リサイクルは費用がかかるというところが大きな問題だ。ずっと使えるものを買う、余計なものは買わないことが大事だ。各家庭に更なるアピールが必要だ。

【委員】

本当に力を入れる部分と、縮小廃止なり選択する部分を、次の計画策定の中ではより広い目で見て振り分けたらよいと思う。

工場排水の調査については、県の調査実績も考慮して良いと思う。

【委員】

私に関わった事業は、実施した内容がしっかり書いてあった。こういう評価は、それぞれの部署が実施した事業に関わって具体的な内容がわからないと理解しづらいものだと感じた。

【委員】

達成目標進捗調査票の目標値と実績値に乖離があることにつき、市民が動くようにどういう仕掛けをするか、これに尽きると考える。

地球温暖化に対する取組が活発になることで、一般市民の生活が変わるかといえば疑問であり、実際には多くの人が地味に取組をしているのではないかと思う。

ごみの量が減らない理由について、売る側がごみを減らす取組をしないと、ごみを減らすことはできない。いち地方自治体の取組では難しく、こういうところに取り組みないと画期的なごみの減量はできないのではないかと感じた。

ごみの分別とリサイクルをしっかりと回収する以外は無いのではないかと感じた。

【委員】

草津市は早い段階からごみの分別を厳しくしており、これもそろそろ限界だ。分析については、経年変化を考慮して継続してほしい。

気候変動への対応として洪水対策が挙げられる。対策の一つに浸透枳の管理があり、地道な環境対策になる。低騒音型の舗装も土に水分を含むため、温暖化対策に位置づけられる。

交通システムについて、まめバスは最近利用者が増加しており、こういう良いものについて分析していただけるとありがたい。

南草津駅周辺は朝夕の交通渋滞が酷く、CO2 排出は無視できないレベルだ。環境部局だけでは難しいため部課横断的に考える機会がないのかと感じた。

【委員】

事業の縮小・廃止の理由について、効果が無いから単純に廃止したのか、効果が無いものをどうすべきか考えて廃止したのかわからない。拡大と継続の違いも同様にわかりにくい。

市民参加を得て協力者を増やせる、市役所の思いが市民に伝わる仕組みや工夫が必要だと感じた。100以上ある取組を何年も同じように取り組んでも成果は出ないと考える。

【事務局】

長年同じことをすると、形骸化する部分も正直あるかと思う。次の基本計画の改定では、そういった部分を含めて案を考えていきたい。

【委員】

次の基本計画改定では選択と集中が必要だ。

市役所が音頭を取るのではなく、すでに市民が活動している良い活動を、市がサポートするような形を取った方がしっかり根付くと考える。

【委員】

アパレルメーカーの自社製品回収、ネット上のフリーマーケット等、現在上手く運用されているリサイクル・リユースシステムがより活用されるよう、市役所が誘導できないか。

【委員】

一番冬の寒い時期に開催されるこども環境会議や、面白みが感じられない環境支援事業等、事業の中身についても評価を行い、市の事業として魅力のあるものにしてほしい。

農業体験事業についても、バスを借りて田んぼへ行く学校もあり、農業体験が大事なのかバスの出す温室効果ガスの削減が大事なのか、というところに疑問を感じた。

【委員】

調査票に記載されている内容が、定量的な記載と定性的な記載が混じっており、非常に評価しにくく、そこから導き出される成果に根拠がないのではないかと感じた。

基本計画が策定され10年が経過し、環境に関わる事柄が変化してきており、新たに追加された項目もあり、各事業が実施側の視点で評価されていると捉えた。

市民の環境への取組が網羅されておらず、抜け落ちが増えてきているか、抽出できていない

という印象を受ける。例えば低炭素社会への転換の、地球温暖化対策に取り組む市民の割合のような、雰囲気を知る調査というのは、大体3、4割で頭打ちになる。低電力型の蛍光灯に切替る等、聞き方を変えるだけで意識されるものだ。逆に、意識されていないくらい省エネ意識が高まっている可能性がある。

いずれにしろ正しい数値・情報が採用されていない状態であることを認識した上で、今後は考えてほしい。

【委員】

事業が120項目もあり評価も大変だが、市民を巻き込める貢献度の高い事業に集約されてはどうか。また、市民が参加可能な機会に対する広報手段をもっと検討されてはどうか。

【委員】

まめバスの運航スケジュールは、地域の維持・活性化には土日の運用を検討してはどうか。

【委員】

進捗状況調査票の64番の幼児期における環境学習は、遊びを通じて環境に対する意識を持つことができ、良い活動だと感じた。

【委員】

進捗状況の確認の中で出された課題につき、次の基本計画にどう繋ぐかが大事だ。

また、草津市の行政の範囲の視点だけでなく、国や県の行政とも繋がっていることも含めて何が考えられるかというところも意識して纏めればどうかと考える。

【会長】

環境基本計画策定時に、具体的目標を設けて評価をしていくという基本方針を立て、それに基づいて各課の状況を示したものが基本計画進捗状況調査票だが、環境基本計画に関わる他の課の事業内容をすべて盛り込んだものとなっている。

環境政策課のみで進めることができない事業へ多く御意見を頂いたことも含め、次の見直しではどのような目標を設けるか、どんな指標を持って評価するのかということを議論すべきと思う。

3. 閉会

【事務局】

大変長時間にわたり審議いただき感謝する。もう少し深掘りして分析を行い、現計画、第3次の基本計画の改定について本日頂いた御意見を参考にさせていただく。

他部局と連携して事業を進める中で、環境の側面について考慮することが重要であることを関連部局に伝えて理解してもらうことが、ひいては市民、事業者へ伝わって行くと考え。環境部局のみが環境に関連する事業を行っているわけではなく、他部局と協働で進める必要があると改めて理解した。現状の分析を行い、選択と集中について考える必要がある。皆様から御意見を頂きながら時期の計画策定をさせていただくことになるかと思う。

本日は誠にありがとうございました。今後とも宜しくお願い致します。

以上